



## S 藤先生との会話

数学科のS 藤先生（12R担任）と話していたら13Rの話題になった。以下、その時の会話の再現。

\*

S：13Rは数学をとてもまじめにやっているようですよ～。

H：講師のF原先生がそうおっしゃってたんですか？ 信じられないなあ～～

S：そんなことないですよ。

H：そういえばこの前の学級日誌に「癒やし～」とか書いてあったので、のんびりやっているってことですかね。

S：そういうことではなくて、みんなまじめの取り組んでいるそうです。

H：う～ん、ますます信じられないなあ。だって、これまた学級日誌には「眠い」「図形ダメ」とかよく書いてあるんですよ？

S：藤原先生はそんなことおっしゃってないですよ。眠くても、ちゃんと起きてるんじゃないですかねえ。

H：いや～、13Rの生徒たちは欲望に正直だから（笑）、眠いときは寝てると想像されるんですけどもねえ。

S：F原先生がおっしゃるには、数学がよくできる生徒も手を抜いたり、バカにしたりしないで、どんな問題にも一生懸命取り組んでいるし、不得意な生徒も、きちんと授業を聞く姿勢があるということです。

H：そもそも数学ができる生徒がいるんでしょうかね（笑）？

S：いやいや、Aくんとか、Bくんとか、私も名前を聞いてます。

H：あ～、なるほど。AくんとかBくんとかはまじめにやりますね。（担任注：名前は

出さないが二人とも男子でした）

S：成績もなかなかイイじゃないですか。

H：そうですね、言われてみればイイようなきもしますなあ。

S：でも、面白いですね。F原先生は16Rも担当していらっしゃるんですけど、授業は13Rが楽しいらしいのに、テストの平均点はずっと16Rの方がイイらしいです。

H：いや、それは数学だけでなく、他の科目の先生からも言われるんです（泣）。まったくその通りですねえ。あ～どうなってるんでしょうねえ、頭が悪いのか、コツコツやってないのか…

S：でも、授業の雰囲気がいイってというのは一番じゃないですか。そのうち…

\*

ここで次の仕事が入って会話中断。以下はこうなるだろうという担任の創作（笑）。

\*

S：…そのうち、力が発揮されるんじゃないですか？

H：そうなるとういだけだなあ～。

S：でも、そのためには予習・復習ですよ。生徒一人一人が自覚して、少しずつ勉強時間を増やしていけるとイイですね。

H：せっかく先生方のイイ授業を受けられる雰囲気を自分たちで作れているのだから、あとは自分たち側の勉強の努力、つまり、しっかり家庭学習の時間を確保して、その授業の内容をきっちり理解する。そういうコツコツ型の学習を積み重ね、先生方の期待にも応えられるし、自分の希望をも実現できるような実力をつけてほしいですな。